11/26

大学斗争を再度前へ進せ！

統一団交に結集せよ！

本日(26日) 1時 講堂

全市大の斗う学生・院生・教職員の皆さん！

先日の佐藤・ニクソン会談において「沖縄の七二年返還」を強張しながらも核兵器の有事持ち込みということで本土の沖縄化が明確に打ち出された。まさに七〇年代の巨大なる攻勢のうちに踏みだされたのである。この様な状況で大学はどうなっているのか？ 11月13日から17日にかけて街頭斗争へ学園から多数の斗う学生教職員を送り出したかあの日から一週間以上経た現在、市大はどのように動いているのかを考える必要がある。市大斗争の発端であった医学部においては、24日、無給医・青医連を完全に排除したまま授業が再開され、一切の斗争を強権的に圧殺されようとしている。

しかし大学当局は、我々が十月半ばから要求してきた統一団交を我々のその強力な要求運動の前に応せざるをえない状況となった。それは大学当局にとっても全学集会的な内容にさせようとする政治的判断を意味しているにしても統一団交議長団は結集された圧倒的な力でもってその様な意図を粉砕するであろうし現在までの一切の協議会の活動を徹底的に総括させ追求するであろう。市大の改革はこの団交にかかっているのである。

下関攻

（南）川上 （商）林 （家）なるメンバーである
（商）山崎 （工）要 （生研）本 （原研）浦 （医）主長、山田直長も院長、原野、松最病（法）藤兼お田（文）多崎井な遍（理）尾ネ部長、
メンバー
長川口生学側学森川学医局瀬木木宅谷当渡直柿二小
家政学部長は出席をも拒否した。